

佛心

二〇一七年六月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺



人生ひと呼吸

「されば、人間のほかな
き事は老少不定のさかい
なれば、誰の人も、はや

く後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏を深くたのみまいらせて、念仏申すべきものなり、

(蓮如上人 御文章「白骨章」より)

これは、浄土真宗の第8代目御門主であった蓮如聖人が御文章(白骨章)に記されたものです。現代語訳をしますと、「人の『いのち』のはかなさは年齢を問いません。だからこそ年齢に関わらず、誰もが一時も早く後生の一大事に気づいて、阿弥陀仏を深くたのみとして、念仏を申す身となることが大切なのです。(御文章ひらがな版を読む)より」という御門徒方へ宛てたお手紙でした。

本日は、この蓮如上人が残された御文章を味わい、法話を書かせていただきます。

約2年前まで、私は大阪のあるお寺で法務員(雇われ僧侶)をしていました。そのときお世話になったご住職から聞いた話しを少しさせていただきます。

そのご住職から聞いた話しとは、お釈迦様がお弟子さんに対して説いた『いのちの長さについて』のお話でした。

「お釈迦様がある日、一人の弟子と散歩をしていたそう。するとお釈迦様は、突然その弟子に質問を投げかけた「人生とは、どれぐらいの長さだと思おうか?」と。その問いを投げかけられた弟子は、自分の周りで亡くなった人を思い浮かべて「50年ぐらいだと思います。」と答えた。

すると、お釈迦様はニコツと笑って「違う」とおっしゃった。弟子は「あつ、ちよつと長かったかな」と思い、「45年ぐらいだと思えます。」と答えた。ところが、お釈迦様はニコツと笑って、また「違う」とおっしゃる。それからどんどん年を減らしていくが、お釈迦様は相変わらずニコツと笑っては「違う」としか言わない。

とうとう考えられなくなった弟子は「私には、もう人生の長さというものは分かりません」と正直に答えた。そのとき、お釈迦様は本当に優しい笑顔を見せられて、「こうおっしゃった。『人生、ひと呼吸』と。」

お経の中ではこのお釈迦様の教えを

「出息入息、不待命寿」と説かれています。こちらを書き下してみますと「出る息は、入る息を待たず、命終わる」となります。つまり、吸った息を吐き出せなければ、はたまた吐いた息を吸えなければ、その時が

死ぬときである、ということ。です。

この話しを聞いた当時の私は、(人間は息が出来なければ死んでしまう。そんなの当たり前やないか)と思っていました。しかし、あるご縁をきっかけに、もしかしたら当時ご住職の言いたかったこと、そしてお釈迦様が弟子に伝えたかったこと、このような事かなと考える機会がありました。それは私が大阪での法務員をさせていただき、しばらく経った頃です。

急遽、ご住職からある祥月命日の法要を勤めるように頼まれました。急いで本堂へ入りますと、40代ぐらいのご夫婦と2人のお子さんがいました。(ああ、これはお爺ちゃんかお婆ちゃんか命日の法要だな)と思えました。しかし、いざ座布団の上に乗りますと、その予想に違和感が出てきたのです。それは遺骨が入っている骨壺が私の握り拳よりも小さかったのです。

お勤めが終わり少し話しをしていると、その小さな小さな骨壺に入っている遺骨が2歳で亡くなった女の子であると知りましました。その女の子は生まれたときから体が弱かったらしく、一日一日を生きているのが大変であったそうです。

そのご夫婦が話してくれました、その子が笑ったときのことや初めて一人で立ったときのことを。話しを聞いていくと、その親は我が子がいつまで生きられるか分から

ないという不安と同時に、いまある命を大切に一緒に生きていこうという一瞬一瞬を過ごしたのではないかと感じずにはいられませんでした。

そして、私はこのご夫婦との法要が終わった後に、以前ご住職から聞いたお話し、先程のお釈迦様の話しを思い出しました。

人生、ひと呼吸。吸った息が吐き出せなければ、また吐いた息が吸えなければ、その時が死ぬときである、というお話です。言い換えると、入った息が出ていったから、生きていた。出た息が入ってきたから、生きていた。その一瞬一瞬が私たちを生かしているのだと。

すると、私たちが「人生の長さ」というものを計るときによく使う平均寿命といったものに疑問を抱かずにはいられません。平均寿命から「80歳まで保証されている」もしくは「最低でも70歳まで大丈夫だろう」という考え。

特に私の場合でしたら、「自分は26歳で若くて元気だからまだまだ長く生きられるぞ」といったことは言えなくなっています。

法話の初めにいただきました蓮如上人の御文章の「白骨章」には、『されば、人間のはかなき事は老少不定のさかいなれば、』との言葉。その「老少不定」とは、年をとった者から順に死んでいくのではな

い、若い者も幼い者もいつ死んでもおかしくないのだということを書いていきます。

そしてこの後には、『誰の人も、はやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏を深くたのみまいらせて、念仏申すべきものなり。』と続きます。

私たちの身は、いつ亡くなるか分からない不安定なもの。だからこそ、阿弥陀如来の救いのはたらきは、長く生きてきた人を優先するわけでもなく、若くて元気いっばいな人を優先するわけでもない。はたまた、いっばい勉強してきた者や修行をたくさんしてきた者だけを優先するわけでもない。そのままのあなたを浄土へ迎え入れるぞといった願いを建てられた仏が阿弥陀という仏さまだったので。

本日この佛心 (Guiding Light) 冊子を通して、皆様と共に仏さまの教えそして阿弥陀如来のおはたらきに出遇わせていただいている。これも今まで絶えることなく呼吸をすることが出来ていたからです。

物事の大切さというのは、目の前から無くなって初めて気づくことが多くあります。しかし、先程のご夫婦のように今あるいのちを共に一生懸命に生きていき、阿弥陀如来のおはたらきに心を寄らせていただく、それは今日、もしくは今からでも遅くはないと思います。これからも共々手を合わせ、お念仏をさせていただきます。合掌

駐在僧侶 大内祐真

日本語法座のご案内 (毎週月曜10時より)

『浄土真宗って？ 仏教って？ そもそも宗教ってなんだろう？』

そういった疑問を駆け出しの坊主と一緒に考えながら、噛み砕いた言葉でお話しをしています。親鸞聖人がお書きになった正信偈と一緒に称え、浄土真宗のみ教えに耳を傾けてみませんか？
毎週月曜日10時より勤行の後、日本語の法話をしています。



6月の日程表：

- 5日 正信偈(行譜)和讃 「本師竜樹菩薩は」
ほんしりうじゅぼさつ た
- 12日 正信偈(草譜)和讃 「生死の苦海ほとりなし」
しょうじ くかい
- 19日 正信偈(草譜)和讃 「如来浄華の聖衆は」
にょらいじょうけ しょうじゅ
- 26日 正信偈(草譜)和讃 「本師雲鸞和尚は」
ほんしどらんかしょう

問い合わせは、大内祐真(僧侶)まで rev.ouchi@tbc.on.ca

複数の主人に奉仕すること



最近私は Evangelical Zen と呼ばれる本を読みました。第一著者はプロテストアント系クリスチャンであり、日本での旅を描き、自分と違う人との出会いを通して自分自身を発見する方法を描いています。

この本での私の最も興味深かった発見は、キリスト教の特徴の基礎となる愛と不安の考えが奇妙に混じり合っているということでした。それはキリスト教のすべての宗派で起こるものではなく、すべてのキリスト教徒が感じるものでもありません。しかし、保守的な団体では強く、仏教との違いが浮き彫りとなっており、私はそれをさらに探求したいと思っていました。

著者は彼の神への愛と忠誠を示すために、この本の中で何度も横道に逸れていきます。彼は明らかに、仏教徒と話をしているという理由で、保守的なキリスト教徒の読者に拒絶されることを恐れています。しかしそれだけではないようです。彼は他人の信仰を尊重してしまおうと、神が彼を拒絶してしまおうのではないかと恐れているようです。もっと踏み込んでいうと、彼は自分自身が他の宗教的な人物に感情的に繋がるようになってしまおうと、彼自身が神を拒絶してしまおうことを恐れているようなのです。だから、神に対する彼の愛は、

深く根付いてしまった恐れと不安の源でもありません。こうして、彼は福音の中のイエスの言葉を繰り返し登場させているのです。人は²人の主人に仕えることができないと言っているわけです。

これらの感情は、キリスト教的神学特有の自然な結果です。嫉妬的で信者の愛情を横取りするライバルとなる宗教の存在を望んでいない神を投影しています。誰をも愛すると主張するが、その愛に愛を返さない者は拒否し、永遠の恐怖と痛みでそれらを罰する神。この神学では、主人と奴隷の間の関係が本質的な想像されるので、あなたは²人の主人を奉仕することができないと言うのが理にかなっています。主人は奴隷に対して絶対的なパワーを持ち、奴隷は絶対的な従順と献身を示さなければなりません。複数の主人に対して絶対的な従順と献身を示すことは不可能です。

保守的なキリスト教徒は、「あなたは²人の主人に奉仕することはできません」と言います。なぜなら、それはキリスト教的神学が彼らに思考を教えているからです。しかし、私にとつて、複数の主人に仕え忠実に従うことができることは明らかです。違いは、主人と奴隷の関係に基づいていないことです。私は多くの主人にさまざまな形で奉仕します。私は妻を特別な方法で奉仕し、彼女の要求に気を配ります。私はある意味では子供たちにも奉仕し世話をします。私は学生にも、同僚にも、お寺にも奉仕します。これらはすべて私の

主人であり、私は気を配り手間をかけ、愛情を注ぎます。しかし、私の精神性が責任感、お互い様の精神、相互扶助の精神に依っているのです、私は非常に多くの主人に仕えることができます。そのような見方では、今を生きているという事実を通して、たくさんの人との関係性の中で生かされていることに私は気が付いているので、²人の主人にしか役に立てないのは本当に有り得ないことなのです。

人々は時には浄土教とキリスト教とを比較します。私はいくつかの類似点はあると思いますが、比較すること、特に、仏教を保守的な形のキリスト教と比較するとは仏教の教えを深く歪めてしまうことがあります。私が経験してきたように、仏教には不安や恐怖はありません。私は阿弥陀仏が私を拒絶することを恐れません。私は阿弥陀仏を拒絶することさえ恐れることはありません。阿弥陀仏は、私の愛を欲するような嫉妬深い神ではありません。阿弥陀仏は決して尽きることはない、慈悲と智慧の源です。阿弥陀仏はありのままの私を受け入れます。私が忠実な仏教徒、悪い仏教徒、キリスト教徒、または無神論者であるかどうかに関係なく。

ジェフ・ウイルソン

TBCの見解 ‘お寺の鍵の返却’

感謝と共に合掌
ラリー ワキサカ

2016年12月15日、私はトイボ クヌードさんから心を打つ一枚の写真を受け取りました。それはトイボさんがお寺の保守整備のボランティア活動で来られたおりに撮られた写真です。その日はとても静かな一日で、トイボさん、パメラ ヨシダさん、ミッツ スミヤさんしかお寺におらず、ミッツさんは彼が持っていたお寺の鍵一式を返却するために来られたものです。ただし、その鍵一式は単なる鍵ではありませんでした。

その鍵一式には # 1 のラベルが貼ってあり、それは私たちの現在のお寺が建てられている時の一番最初の鍵一式でした。ミッツさんは最初の鍵一式を常に所持し、故トム アレンさんが二つ目の鍵一式を所持されていました。このお二人はお寺の建物の保守整備を日々行っており、ミッツさんはお寺の内部を担当し、トムさんはお寺の外周りを担当していました。彼らのチームは素晴らしいもので、建物のすべての保守整備を期限までに、そして予算の範囲内で常に行いました！ 彼らは多くの時間を、苦勞もいとわずにお寺の保守のために費やされました。

お寺が完成した後も、トムさんとミッツさんは引き続きお寺の保守整備を担当し、お寺の周囲を見回ったり、電球の交換などを行っているミッツさんを良く見かけることがありました。彼は細心の注意を払ってボランティア活動をされていました。一度、彼が建物の点検中に、建物保守の重要性について私に語ったことがあります。その時の印象、心配り等は私の心に刻み込まれ、お寺とサンガコミュニティに対する彼の献身は未永く私の心に留まることになりました。

2016年12月15日にミッツさんが持っていた鍵一式をパメラさんへ手渡すためにお寺に来られたのは、彼がその鍵一式をもう使うことはなく、誰か違う人が使う方が良く考えたからです。その時に撮られた写真は、ミッツさんの人となりや心を写すものでした。私がお寺の写真を初めて見たときは、涙が止まりませんでした。

その一枚の写真を受け取った瞬間に私が考えたことは、この鍵一式はミッツさんが保有すべきもので、お寺への返却を受けることは出来ないという思いでした。その鍵一式はもともとミッツさんに委任されたもので、当然これからも彼が所有すべきものです。

2017年5月14日に向け、その鍵一式をミッツさんへ献呈する企画が練られ、経営委員会が行われているある日曜日の朝にその時がやってきました。その日、ミッツさんは素晴らしい奥様のグロリアさんと共に来られ、ミッツさんとグロリアさんは経営委員全員による総立ちの拍手の中、その鍵一式が取り付けられた表彰盾を受け取られました。

その表彰盾には以下の銘文が刻まれています。

ミッツ スミヤ氏へ献呈

尽きることのないトロント仏教会に対する奉仕と心配りに対し

感謝と共に合掌

2017年2月

ミッツ スミヤさんはこの感謝のしるしにビックリされていましたが、この感謝の銘文は、彼が私たちのお寺にとってどれだけ重要だったかを彼に知らしめるでしょう。ミッツ スミヤさんと鍵#01はこれからも共にあります。



浄土真宗本願寺派 カナダ教団年次総会 (AGM)

4月20日～4月23日の間、ここトロント仏教会で浄土真宗本願寺派カナダ教団の年次総会 (Annual General Meeting) が開かれました。

カナダ全国の寺院から開教使ならびにご門徒役員方がここトロント仏教会に来られ、様々な議論がなされました。トロントにお越しいただいた方々からは、「今年はトロントでAGMが開かれて本当に良かった」との声を多くいただきました。

際しましては、その間の法要ならびに会議、ワークショップなどを支えて下さいましたトロント仏教会メンバーに改めまして感謝の意を申し上げます。誠に有り難うございました。

今後ともトロント仏教会をはじめ浄土真宗カナダ教団を宜しくお願い致します。

これからも浄土真宗のみ教えに共に耳を傾け、阿弥陀如来のおはたらきに手を合わせさせていただきます。

合掌。



各寺院の近況報告会の様子



2017年度浄土真宗本願寺派カナダ教団年次総会の様子



手作りうどんを振舞ってくれたボランティアの皆さん。

オタワで初めての花祭り

先日、クリステイーナ先生がオタワで花祭りのお勤めをしました。

お花祭りとは、お釈迦さまの誕生をお祝いする行事のことです。お釈迦さまは、紀元前7世紀から紀元前5世紀ごろにインド北部のルンビニ園（現ネパール）で誕生しました。そのルンビニ園は、たくさんの花で囲まれていたそうです。そのためお釈迦様の誕生日には、たくさんのお花を供えるようになり「花祭り」と呼ばれるようになりました。



オタワでは、20人以上の方がお参りに来て下さり、お釈迦様ご誕生のお話の後、子ども達が花御堂に生花で装飾をしてくれました。初めての花祭り法要であつたからか、お参りに来られた方々からは、仏教に関しての多くの質問がされたようです。お疲れ様でしたヤンコ先生



TBCピクニックデイ!!!



6月11日(日) 午前10時開場

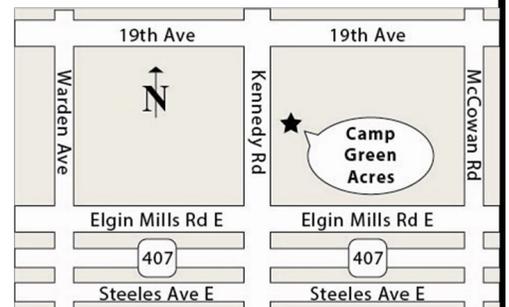
場所：キャンプグリーンエーカーズ (11123 Kennedy Rd. Markham)

参加費：自動車：5ドル (運転手一人を含む)

：大人：3ドル (16歳以上) ただし65歳以上は無料

：子ども：無料 (15歳以下)

家族や友人と一緒に外で食事をしたり遊んだり、のんびりとした時間を過ごしませんか?ミニゲームやビンゴ大会などもあります。



お盆のご案内



お盆とは先にお浄土へ還って往かれた方々を偲び
 そのお導きによって私が今、お念仏する身へと
 お育ていただいた事に感謝する大切なご縁です。
 是非ともご家族おそろいでお参りになって下さい。

7月8日 (土曜日) 午前中 お墓参り トロント各墓地

お墓参りのスケジュール

藤井朋文	ジェフ・ウィルソン	ジェシー江畑:
Toronto Necropolis 9 AM*	Glen Oaks 9:15 AM*	Sanctuary, North 9:00 AM
St. James 9:30 AM*	Spring Creek 10:00 AM*	Riverside and St. Philips 9:30 AM
Mount Pleasant 10:30 AM	デニス間所	ジョージ中野
クリスティーナ・ヤンコ	Highland Memory Gardens 9:30 AM	Sanctuary, South 9:00AM
Prospect 9:30 AM	Elgin Mills 11 AM	Meadowvale 1 PM
Parklawn 10:30 AM*	***時間の確認をお願いします***	(or time to be arranged)
大内祐真		ジョン西川
Pine Hills 9:30 AM	マーティン・カートレッジ	Glendale 9:30 AM
Rest Haven 10:30 AM*	York 9:30 AM	Pauline Knude: Salem ... Time to be arranged

うら ぼん え 盂蘭盆会

日程：七月九日 (日曜日) ※八日は各お墓参り
 時間：初盆法要 (午前九時から)
 英語法要 (午前十一時から)

日本語法要 (午後二時から)

場所：トロント仏教会 (トロント本願寺)

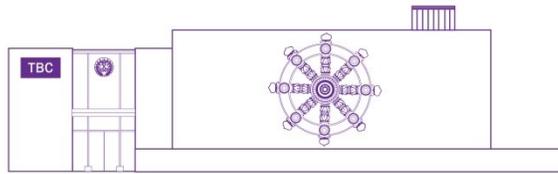
今年の盂蘭盆会には、浄土真宗本願寺派アメリカ仏
 教教団 (BCA) の開教総長である梅津広道先生うめづこうどうが御
 講師としてこのトロント仏教会に来られます。梅津総長
 は、1973年に京都龍谷大学を卒業後、アメリカに
 開教使として渡米し、フレズノ別院に着任。その後も
 アメリカ教団の各寺院を渡り、2012年4月1日に
 浄土真宗本願寺派アメリカ教団14代目の総長として
 任命されました。

柔らかくも鋭く、親しみ深い話し口調で仏さまの教
 え、阿弥陀如来のおはたらきを説いてくれます。
 お勤め後、梅津総長の御法話を聴聞し、浄土真宗の
 み教え、仏教の法に共に心を寄せてみませんか。

トロント仏教会で
 お待ちしております。

合掌 南無阿弥陀仏





会員登録
新規／更新

オンライン登録
新規／更新

会員登録のお願い

2016年が過ぎ、また2017年度会員登録のお願いの季節になりました。昨年も会員登録数が増え、300名を超えました。この順調な増加傾向はトロント仏教会の将来に向けた心強い流れになっています。しかしながらなお、いまだに会員登録をされていない方がおられます。

言うまでもなく、トロント仏教会の将来は会員の皆様に依存しており、ここに今年度の会員登録と会費のお支払いをお願いするものです。

トロント仏教会は常に会員特典の向上をめざしておりますが、ここにいくつかの特典を列記します。

1. トロント仏教会の運営に関する投票権の取得、例えば総代表および各会リーダーの選出、予算の決裁その他トロント仏教会の将来に関する重要な事項等。
2. “Jodo Shinshu values of the Temple” の定期購読
3. 現行会員による無料公証業務
4. CAA Premium-level の割引
5. トロント仏教会特別行事への参加費用の免除あるいは一部減免

一般会員とは各年1月1日から12月31日まで有効で、トロント仏教会の会員として活動するにあたり、年初において速やかな会員登録をお願いします。会員登録と会費（2017年の会費は最低\$100から\$125に上がりました）の受理後（あるいは5月31日までに支払うとの確約後）、会員カードを送付します。